

勉強のヒケツ

— 後期スタート —

今日から後期スタートです。

先週の金曜日には「あゆみ」をもらって、自分の得意なところも、苦手なところも知ることができたはずですよ。

得意なところは、どんどんみがいてテカリかしてほしいし、苦手なところは少しずつ良くなっていくといいなあ。

さて、6年生の話をしよう。6年生は、ある調査(アンケート)で、ある質問に、次のように答えていました。

「国語や算数は好き？」では、学年の中のまあまあの人たちが「はい」と答えていたかな。もちろん「キライ」もいました。校長先生も、勉強は好きやなかったなあ。
では、「国語や算数の勉強は大切ですか？」という質問には、なほなんと！ほとんどの人が「大切です」と答えたのです。すぐくないですか。

教科に好きさらいはあって当然です。でも、勉強は大切ってわかっているから、がんばるのですね。それがすごいですよね。これが6年生のパワーのもとかな。

算数の勉強をしなかったらどうなる...、勉強は何の役に立つ？何のためにする？そんな答えを6年生の人たちはもっているんだらうなあ。

勢和小のみんなが、6年生の人たちのように考えられるといいなあ。



完敗

— 3年生の算数 —

少し前ですが、3年生の算数の勉強のおうえんに行ってきました。校長先生が、教室に入ると、「え〜、校長先生、算数わかるの？ちゃんと教えらるの？」と、すっごく心配な3年生。

「くそ〜、たしかにうんは、教室に行っても、フラフラしてイラんことして帰、ていくイメージはあるが、昔は、一応、算数も教えていたんやぞ」と、校長先生は、心の中ぞつぶやいた。でも〜、やっぱり自信があったから、大きな声で言えやんたさ、（は）。

で、授業を始めると、校長先生が教えるまで日く、かんたん！に答えを出す方法は見つけるわ、「本当に答えあってるの」と言えば、たしかめの方法もバッチリなんだわで、「3年生ってズガイ」と感心する校長先生でした。「校長先生、それはムズいよ〜。答えを教えてくださいよ〜」と、3年生が泣くやるほと思っていた問題を出しても、あっさり正解。やるほ、3年生。

「いつか、3年生が泣くほどの超難問をもっていきよ〜」と心にちかかって、教室から出ていった校長先生でした。ム・ム・ム〜 ※

